

その他事業 7

|| 事業名 ||

「備中子育て晴れの国づくり」 子育てカレッジ実現事業
 (「おかやま子育てカレッジ」備中県民局情報発信事業)

|| 事業の概要 ||

これまでに実現してきた新見公立短期大学、岡山県立大学、吉備国際大学及び倉敷市立短期大学における子育てカレッジでの協働の取組に引き続き参画した。

また、管内子育てカレッジの相互理解やつながりづくりを促し、ネットワーク化や情報発信に資するため、『「おかやま子育てカレッジ」備中県民局管内ネットワーク会議』を開催し、各カレッジからの参加者による活動内容等の情報交換や意見交換を行ったほか、各カレッジを紹介するパンフレットを作成し、協働の取組の普及啓発に努めた。

|| 協働の主体・役割分担 ||

〃【新見公立短期大学、岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷市立短期大学】

協働の主体	役割分担内容
[大学等] ・新見公立短期大学 (幼児教育学科、事務局、学生) ・岡山県立大学 (保健福祉学科、事務局、学生) ・吉備国際大学 (子ども発達教育学科、事務局、学生) ・倉敷市立短期大学 (保育学科、事務局、学生)	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、 事業実施内容企画・検討、 広報、 事業への参加(知的・人的資源の提供) など
[市町村] ・新見市 ・総社市 ・高梁市 ・倉敷市	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、 事業実施内容企画・検討、 広報、 事業への参加(特色ある子育て支援施策の展開) など
各地域の子育て支援関係者	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加、事業実施企画・検討、事業への参加(子育て支援の質的充実) など
備中県民局(健康福祉部)	協働ミーティング(運営協議会、実行委員会、事務局会議他)参加

|| 実施状況 ||

【新見公立短期大学】

運営協議会の構成員の協働により、「いみこどもフェスタ2013」、「短大生と一緒に、人形劇を見よう!」、子育て支援者に対する専門研修などの事業を行った。

【岡山県立大学】

実行委員会の構成員の協働により、親子で楽しむ音楽会、リズムダンス室に遊びにおいて！！、保育ステップアップ講座などの事業を行った。

【吉備国際大学】

実行委員会の構成員の協働により、大学内広場に冒険遊び場（土山、ターザンロープなど）の整備、k i u i . 講座（子育て講座・子育て支援講座）などの事業を行った。（きび子どもフェスティバル2012は、雨天中止）

【倉敷市立短期大学】

実行委員会の構成員の協働により、倉敷市立短期大学こどもの森2012、倉敷市立短大子どもの劇場30周年記念公演、くららっこ講座（子育て支援者専門研修）などの事業を行った。

【親子交流広場見学】

平成24年9月に開催された全国発信事業『晴れの国「おかやま子育てカレッジ」シンポジウム』参加者が、現地で実際にカレッジの活動を見学できるよう、管内各カレッジにおいて親子交流広場の見学会を実施し、情報発信を行った。

【「おかやま子育てカレッジ」備中県民局管内ネットワーク会議】

- (1)開催日 平成25年2月26日(火)
- (2)場 所 岡山県立大学学部共通棟（西）5108講義室
- (3)参加者 備中県民局管内の子育てカレッジ関係者、関係市町村
- (4)内 容 各カレッジの平成24年度活動状況の紹介、意見交換



親子交流広場イベントの様子
（岡山県立大学）



子どもの森 2012
（倉敷市立短期大学）



子育て支援者に対する専門研修
（新見公立短期大学）

|| 成果・効果 ||

「にいみ子育てカレッジ」、「県大そうじゃ子育てカレッジ」、「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」及び「倉敷市立短期大学子育てカレッジ」では、引き続き、大学の教員及び学生、行政、地域の子育て支援関係者の協働により、親子交流ひろばの運営や、研修・相談事業など様々な子育て支援の取組が行われており地域に根付いてきている。

さらに、全国発信事業に併せた各カレッジにおける親子交流広場の見学により子育てカレッジの理解、ネットワーク会議の開催により子育てカレッジ同士の相互理解が深まった。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

子育てカレッジの実績や効果を管内に波及・発信することにより、未実施大学等への働きかけや協働の取組への理解を引き続き広げていく。

その他事業 8

|| 事業名 ||

「備中子育て晴れの国づくり」 備中子育て晴れの国交流会
協働子育て支援研究会

|| 事業の概要 ||

子育て支援に関係する「産」「学」「民」「官」分野の様々な人々が出会い、学び合うことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくりを進め、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ環境づくりを目指し、「備中子育て晴れの国交流会」を開催した。

また、管内の子育て支援に関する大学等専門機関の研究者と実践者による「協働子育て支援研究会」を開催し、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

|| 協働の主体、役割分担 ||

協働の主体	役割分担
児童発達支援センター倉敷学園	支援施設見学の案内、グループワークにおける進行（備中子育て晴れの国交流会）
倉敷発達障がい者支援センター	講話、グループワークにおけるアドバイス（備中子育て晴れの国交流会）
岡山短期大学幼児教育学科（教授） 岡山県立大学保健福祉学科（講師）	研究発表、意見交換、身体表現実技（協働子育て支援研究会）
地域子育て支援拠点関係者、NPO法人、子育てボランティア、大学関係者、主任児童委員、母親クラブ関係者、管内市町 等	受講、グループワーク等における意見交換、情報交換、交流
備中県民局	交流会等の実施、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流

|| 実施状況 ||

【協働子育て支援研究会】

子育て支援に関して、2名の大学等専門機関の研究者等による発表を行い、研究者と実践者等とが近い距離で意見交換を行うことにより、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

- (1) 日時：平成24年7月6日（金）
- (2) 場所：岡山県立大学
- (3) 内容：講演、意見交換、実技（身体表現）
- (4) 人数：26人



【備中子育て晴れの国交流会】

児童発達支援センター倉敷学園、倉敷発達障がい者支援センターと協働し、「発達障がいとは」について学ぶとともに専門施設における支援の工夫等を見学した。

あわせて、「気になる子ども達や保護者の支援」をテーマとしたグループワークを行い、市町や立場の枠を越えた子育て支援に関わる者同士のつながりづくりを推進した。

(1)日時：平成25年1月23日(水)

(2)場所：児童発達支援センター倉敷学園

(3)内容：講話、支援施設の見学、グループワーク等

(4)人数：25人



|| 成果・効果 ||

【協働子育て支援研究会】

- 1 普段なかなか接する機会のない、大学等専門機関の研究者と知り合い、つながりづくりができた。
- 2 専門機関研究者の豊富な情報や広い視野からの研究、実践発表を聞くことにより、子育て支援関係者がこれまでの自己の取組を振り返り、今後の活動などに役立てていくきっかけづくりとなった。
- 3 参加者からは、以下のような感想が寄せられている。
 - ・研究会での先生のお話は、私が今まで知らなかった子育て支援の手法でした。実践してみたいと思いました。

【備中子育て晴れの国交流会】

- 1 管内の子育てや子育て支援に関わる方々が集まり、講話・グループワーク・現地見学等を行って交流する機会を設けることにより、地域や立場を越えて情報が普及するとともに理解が深まり、つながりが広がりつつある。
- 2 参加者からは、以下のような感想が寄せられている。
 - ・他機関のスタッフの方と話す機会はなかなかない。いろいろな立場の方と出会えたので新たなつながりを大事にしていきたい。
 - ・保護者に情報提供するときに、自分の目を見たことは話しやすく今後役に立ちます。
 - ・自分の今の支援の仕方、声のかけ方などについて、見直していくべき点に気付きました。
 - ・参加者の皆さんそれぞれの思いに共感できた。今後の励みにしていきます。

|| 来年度以降に向けての展開 ||

各種研修会など、他の情報交換・交流の機会との調整を図りながら、今後とも内容を工夫して実施し、子育て支援の輪をより一層広げていく。

その他事業 9

|| 事業名 ||

「備中子育て晴れの国づくり」 親支援プログラム普及推進事業

|| 事業の概要 ||

全国で広く実施され、実績のある次の親支援プログラムの管内での普及を子育て支援関係者との協働で進めることにより、地域の子育て支援活動のさらなる促進を図った。管内の全市町村に事業の概要等を説明し、実施を働きかけたところ、今年度は管内6箇所で開催された。

- (1) ノーバディーズ・パーフェクトプログラム（「完璧な親なんていない」カナダ発の親支援プログラム）
- (2) お父さん応援プログラム（父親支援プログラム）
- (3) ペアレントトレーニングプログラム（育てにくさのある子どもの子育て支援プログラム）

|| 協働の主体、役割分担 ||

【ノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施（笠岡市・総社市内）】

協働の主体	役割分担
(社福) 摩耶会、 「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会	事業の受託、参加者募集、プログラムの実施（ファシリテーターへの連絡等・会場準備）、託児の実施
県内在住のNPファシリテーターの認定を受けた子育て支援者	プログラムの実施（ファシリテーター）
笠岡市子育て支援課、 総社市こども課	実施協議、事業実施場所等の推薦、参加者募集等
備中県民局	事業説明、実施協議等

【お父さん応援プログラムの実施（倉敷市・新見市・浅口市・矢掛町内）】

協働の主体	役割分担
小ざくら地域子育て支援センター、 新見市、 (社福) 聖華会、 矢掛町	事業の受託、参加者募集、プログラムの実施（ファシリテーターへの連絡等・会場準備）、託児の実施
NPO法人新座子育てネットワークより派遣された子育て支援者	プログラムの実施（ファシリテーター）
倉敷市子育て支援課、 浅口市子育て支援課	実施協議、事業実施場所等の推薦、参加者募集等
備中県民局	事業説明、実施協議等

|| 実施状況 ||

【ノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施（笠岡市・総社市内）】

子育て中の親が集まり、子育てに前向きに取り組めるよう、自分達の生活や子ども、親の役割について考える場を提供する「ノーバディーズ・パーフェクトプログラム」を実施した。

(1) 笠岡市内

- ①日時：平成24年10月10日(水)、17日(水)、24日(水)、31日(水)、11月14日(水)、21日(水) 10:00～12:00（6回連続）

②開催会場：まや保育園

③参加者：14名

(2) 総社市内

①日時：平成24年10月25日(木)、11月1日(木)、8日(木)、15日(木)、22日(木)、29日(木) 10:00～12:00(6回連続)

②開催会場：総社市中央公民館

③参加者：16名

【お父さん応援プログラムの実施（倉敷市・新見市・浅口市・矢掛町内）】

子育て中の男性を対象に、父親の役割、仕事と子育てなどについてグループワークなどを通じて考えてもらう「お父さん応援プログラム」を実施した。

(1) 倉敷市内

①日時：平成25年1月19日(土) 13:00～15:00

②開催会場：ライフパーク倉敷

③参加者：12名

(2) 新見市内

①日時：平成24年11月4日(日) 10:00～12:00

②開催会場：まなび広場にいみ

③参加者：13名

(3) 浅口市内

①日時：平成24年9月8日(土) 10:00～12:00

②開催会場：聖華保育園

③参加者：17名

(4) 矢掛町内

①日時：平成24年11月24日(土) 13:30～15:30

②開催会場：やかげ文化センター

③参加者：13名

|| 成果・効果 ||

【ノーバディーズ・パーフェクトプログラムの実施（笠岡市・総社市内）】

ファシリテーターが、参加者の関心事から毎回のテーマを企画・準備し、参加者同士の話し合いによる気付きに繋がるように進め、参加者からは「悩んでいるのが自分だけではなく、頑張りすぎないで子育てをしていこうと思えた。」など好評の声が多く、参加者の子育て支援及び本プログラムの普及を進めることができた。



事業説明（総社市内）

【お父さん応援プログラムの実施（倉敷市・新見市・浅口市・矢掛町内）】

ファシリテーターが、グループワークでは参加者に問いかけを行うなど、参加者同士の話し合いが進むように促し、参加者からは「他の子育て中の男性の声が聞けてよかった。」など好評の声が多く、参加者の子育て支援及び本プログラムの普及を進めることができた。



実施風景（浅口市内）

|| 来年度以降に向けての展開 ||

管内の市町等に、各プログラムの内容や効果を伝え、検討・実施を働きかけて行く。

その他事業 10

事業名

井原市青野地区における栽培休止予定園の栽培継承対策

事業の概要

井原市、特に青野地区では、植栽年数の長いぶどう樹が多いことに加えて生産者の高齢化や減少により、栽培継続が困難となり耕作放棄化するぶどう園の多発が問題となっている。

そのため、平成22年度からぶどう栽培者やJ A、市などと協働し、栽培の実態調査や生産者の意向調査を行うことで栽培休止予定状況を産地としてとりまとめてきている。また、ぶどう産地の維持に向けてこうした園地での栽培継続をはかるために公募等を通して栽培希望者とのマッチングを行い、耕作放棄園の拡大抑制を進めてきている。

本年度もこうした活動を協働により継続し、ぶどう産地の担い手確保と耕作放棄園の拡大抑制を進め、井原市ぶどう産地の維持を図る。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
井原市ぶどう部会 J A岡山西、井原市 県・普及指導センター	事業の実施主体 事業の運営支援・協力 事業の運営支援・協力

実施状況

ぶどう産地の維持・活性化に向けた協働作業の実施

ぶどう部会とJ Aや普及指導センター等が協働で、ぶどう栽培者の栽培継続に向けた労働支援組織の活用や支援者の技術力向上に向けた講習、栽培休止予定園と借受希望者のマッチング、新たな担い手の確保に向けた取組を行い、産地の維持・活性化に取り組んだ。

(1) 労働支援組織の活用促進について

2つの労働支援組織（支援員59名）の活用で農繁期の作業を乗り切るよう周知した結果、農家19戸が活用し、支援時間は2,497時間であった。

(2) 支援要員の栽培技術力の向上について

農家が利用しやすい(頼られる)労働支援組織にするため、支援要員の栽培技術力の向上に向けて「ぶどう塾」を8回開催した。この結果、支援要員の技術力が向上するとともに、栽培意欲が向上して自らぶどう栽培を始めたいとする者も出始めた。

(3) 栽培休止予定園の実態調査と借受希望者とのマッチングについて

部会役員を中心に、ぶどう栽培を止める意向にある農家の情報を収集し、園地の現地確認を行ったうえで休止予定園としてリスト化した。また、これに並行して、ぶどう栽培の拡大を希望する農家や新規にぶどう栽培を始めようと考えている人の情報も集め、両者をマッチングさせることで87 a の栽培休止予定園を4人の借受希

望者に結びつけた。

(4) 新規参入者の確保・受入について

当産地以外からも新たな担い手を受け入れるため、現地案内や説明会を19人に対して7回開催した。この結果、単県事業「就農促進トータルサポート事業」で2年間の実務研修を利用して1名が就農に向けた条件を整えることができた。

成果・効果

- 1 労働支援組織の活用でぶどう栽培者の労働軽減が図られ、ぶどう栽培が継続されたことで荒廃園の発生を防止できた。
- 2 労働支援要員の技術力の向上で、ぶどう栽培者の支援組織に対する信用力や活用頻度の向上が期待できるようになるほか、支援要員の新たな担い手としての可能性をも高めることができた。
- 3 栽培休止予定園と借受希望者のマッチングが成功することでぶどう栽培の継承が可能となり、荒廃園の発生抑制と産地の維持につながった。
- 4 単県事業の活用で若い担い手が新規参入によって確保できる可能性が高まり、今後の産地活性化の期待が膨らんだ。

来年度以降に向けての展開

- 1 今度とも農家の高齢化と栽培継続ができない園地の発生が見込まれるため、労働支援組織の活動強化と休止予定園と栽培希望者のマッチングを引き続き継続する。
- 2 現地での説明会や案内のほかに県外等に出向いての説明会の開催や就農相談に応じることで、新たな担い手のさらなる確保に向けた活動を強化する。

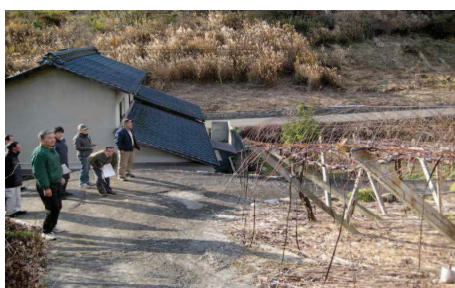
<参考>



労働支援組織の反省会議



ぶどう塾での講習



栽培休止予定園の現地調査



就農希望者への現地説明